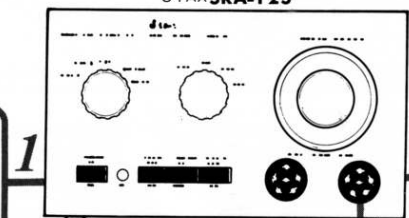


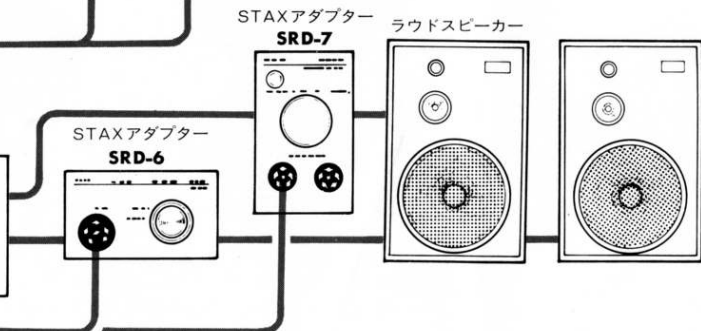
●テレビ音声は、オーディオアウト端子のあるテレビはその端子からの方が良い音でお聴きになれますが、イヤホン端子のみのテレビでは下図のような市販のミニプラグ→RCAプラグのコードを使用してアンプと接続することができます。



## 1 SRA-12Sを使用する場合

SRA-12Sにはインピーダンス(交流抵抗)の高いSRシリーズ専用A級パワーアンプが内蔵されており、SR-Σをトランスを通さずダイレクトドライブできますので最も高いクオリティでお楽しみいただけます。

SRA-12Sは、SRシリーズを最高の音質で駆動させる目的で開発されたプリメインアンプですが、そのプリアンプ部はオールFET・DCアンプ構成という現在最も進んだ回路になっています。お手持ちのパワーアンプのプリアンプとしてご使用になれば透明度の高いしなやかな音質でその性能を発揮いたします。イヤスピーカーとラウドスピーカーの切換えはフロントパネルにあるスイッチひとつで行なえます。(詳しくはSRA-12Sのカタログ又は使用説明書をご覧ください。)

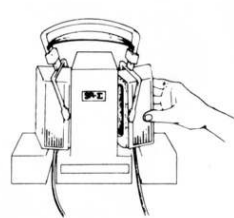


## 2 一般のステレオアンプを使用する場合

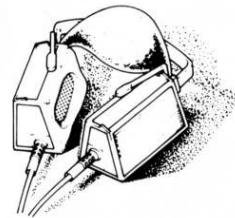
プリメインアンプ、セパレートアンプ(プリアンプ+パワーアンプ)、レシーバー等のアンプを使用する場合は、アダプターSRD-6、SRD-7をご使用ください。もちろんSRD-1~SRD-5もご使用になれます。上図のようにアンプのスピーカー出力端子とスピーカーシステムの入力端子の間に接続します。SR-Σとスピーカーシステムをフロントパネルのつまみで切換えて聴くことができます。左右oh、および⊕、⊖を間違えないよう注意して接続してください。アダプターの入力コードの色別は左⊕=白、左⊖=青、右⊕=赤、右⊖=黒です。スピーカーコードはアダプター背面のスピーカー端子に接続します。

## 使用上の注意

- イヤースピーカーは高温多湿の場所は避けてください。
- 歪感がないので、つい音量を大きくしがちですが、過大入力を加えないようご注意ください。音が割れるような場合は音量を絞ってください。
- 振動膜は極薄のフィルムですから、外部からの不要な衝撃が加わらないようご注意ください。
- このSR-Σは、精密部品で構成されていますので、分解は絶対にしないでください。分解による故障については保証いたしかねますので、ご承知おきください。
- 発音部の開孔部にピン、針金等が入ることのないようご注意ください。
- ヘッドスプリングは通常の使用では折れることはありませんが無理に伸ばしたり、曲げたり、ねじったりしないでください。
- イヤースピーカーを使わないときでも、プラグを抜く必要はありません。
- イヤパッドの清掃には、アルコールを軽く含ませたガーゼをお使いください。
- 汗でお困りのとき、ガーゼを1~2枚パッドにあてがうと楽になります。
- イヤパッドが古くなったり、破損したときは、別売の新しいパッドにお取替ください。
- 付属のスタンドを使用しない場合は振動膜を保護するため、図のようにSR-Σの発音部が下になるような置き方をしてください。



●スタンドを使用する場合



●スタンドを使用しない場合